

16

一般世帯における支援や援助の要請とその実現

16.1 身内や近所とのかかわり

Point

- ・日常生活において回答者世帯の様子を気にかけてくれる身内や近所の人の存在については、ほとんどの世帯でいると回答している。
- ・近所の人と比較的親密な付き合いをしていると回答する世帯は、若年層ほど少ない。

ここでは、一般世帯における支援や援助に関する状況を把握するために、まず、平常時における身内や近所とのかかわりについて把握する。

(1) 日常時において様子を気にかけてくれる身内の存在

図 16-1-1 は、日常生活において回答者世帯の様子を気にかけてくれる身内（子ども、きょうだい、親戚など）の居住地を示したものである。

- ・いずれの地域においても、おおむね 90% 前後の世帯で、「近隣の市町村」もしくはそれよりも近くにそのような身内がいると回答しており、緊急を要する場合には、身内から支援や援助を得られる環境にあると考えられる人が多く存在する。

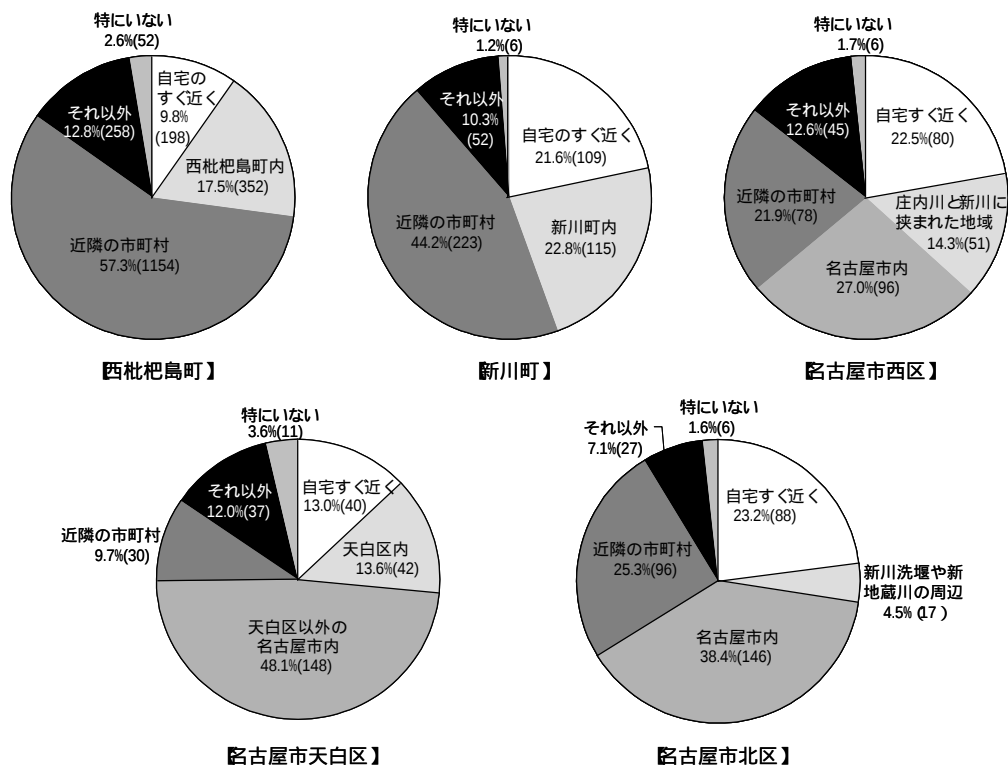


図 16-1-1 地域別に見る支援や援助をしてくれる身内の居住地

(2) 日常時における近所との付き合い

日常生活において回答者世帯の様子を気にかけてくれる近所の人（身内以外）の有無についての回答を示したものが、図 16-1-2 である。

- ・いずれの地域においても、日常の様子を気にかけてくれるような近所の人はいると回答している世帯が 70%以上存在していることがわかる。
- ・生年別にみると、昭和 10 年以前生まれの高齢者において日常近所の人とかかわりを持っていない人が約 30%存在していることが確認された。このような高齢者に関しては、災害時において避難から取り残されることが危惧される。

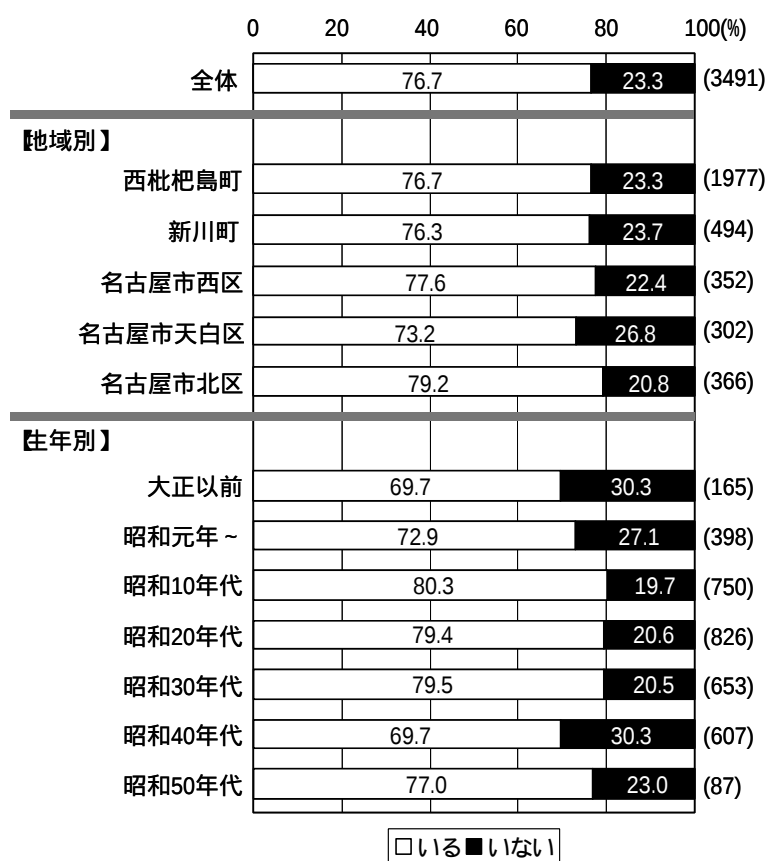


図 16-1-2 支援や援助をしてくれる近所の人是否存在

日常生活における近所との付き合いの状況についての回答を示したものが図 16-1-3 である。

- ・ 全体的に「道で会えば、何かとあいさつをする程度」との回答が 60% 近くを占めており、近隣住民と比較的浅い付き合いをしている人が多くを占める。
- ・ その一方で、「留守中のことなど、おたがいに頼みあう程度」や「とくに用事はなくとも、親しく訪ねあう間柄」などのような、比較的親密な付き合いをしている世帯も少なからず存在する。
- ・ 回答者の生年別に見ると、若年層ほど「顔も知らないくらい」という近隣住民とのかかわりがないとする人が多いことがわかる。

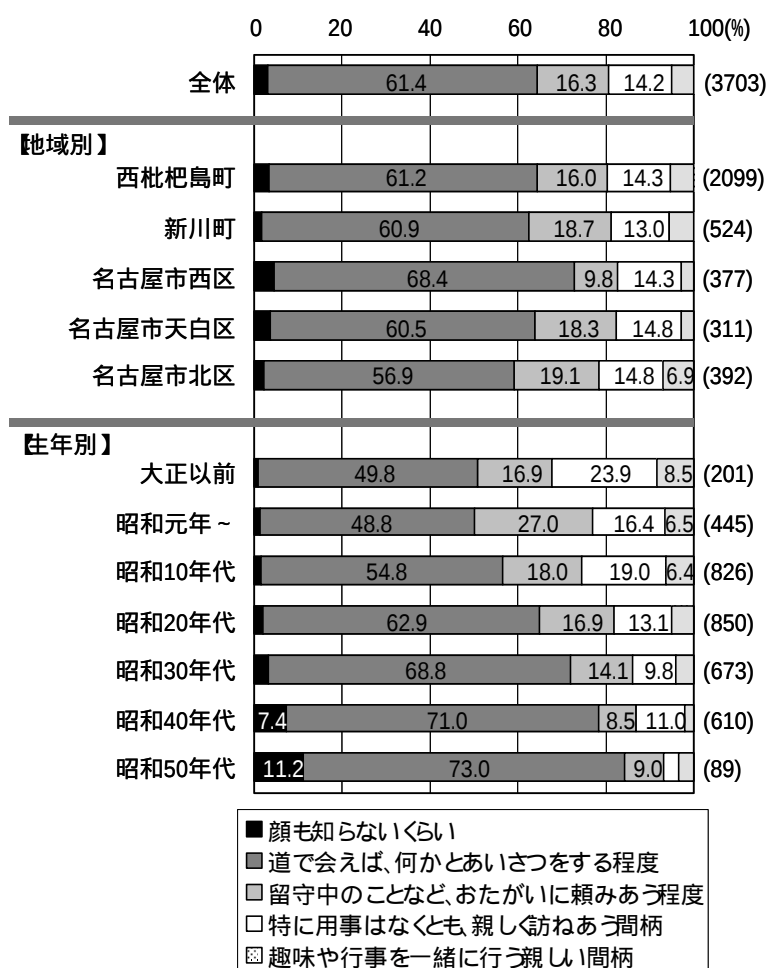


図 16-1-3 日常時における近所との付き合いの程度

16.2 避難時の支援や援助の要請とその実現

- Point

 - ・調査対象の一般世帯において、避難の際の支援や援助を求めた世帯の割合は天白区が他の地域よりも比較的高い。
 - ・支援や援助の内容は「避難所までの移動の援助」が最も多い。また、その要請の相手としては、「身内」が多く挙げられるなか、天白区においては「消防団や自衛隊」が多く挙げられている。
 - ・事態の進展が急激であったため、「時間がなかった」とする世帯が13%存在している。

ここでは、東海豪雨災害において、避難を行う際の支援や援助の要請とその実現に関する状況を把握する。検討項目は、以下の通りである。

- (1)支援や援助の要請の有無
 - (2)支援や援助を求めなかった理由
 - (3)支援や援助を要請した相手
 - (4)求めた支援や援助の内容
 - (5)支援や援助の実現
- (1) 避難時における支援や援助の要請の有無

図 16-2-1 は、避難を行う際の支援や援助の要請の有無についての回答状況を示したものである。

・避難時に支援や援助を求めた世帯は、調査対象世帯全体では約 27%であり、地域別では天白区が約 41%となっており、他の地域と比べて多いことがわかる。

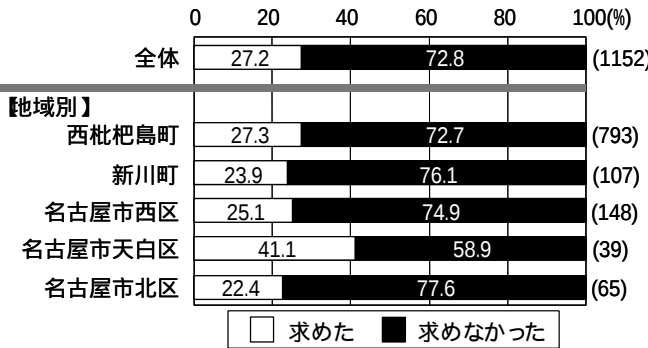


図 16-2-1 避難時における支援や援助の要請の有無

(2) 避難時において支援や援助を求めなかった理由

図 16-2-2 は、避難を行う際に支援や援助を求めなかった世帯に関して、その理由についての回答を示したものである。

- ・「必要がなかった」とする回答が多くを占めているものの、「迷惑をかけたくなかった」、「求める相手がいなかった」、「時間がなかった」などのように、潜在的な支援や援助に対する要望をもつ世帯が少なからず存在していることがわかる。
- ・事態の進展が急激であったことを受けて、「時間がなかった」とする世帯が 13% 存在することが特徴的である。地域別に見ると、名古屋市の 3 地域においてその傾向が強い。
- ・生年別に支援や援助を要請しなかった理由をみると、加齢するほど「迷惑をかけたくなかった」とする回答の割合が高くなり、加齢に伴い周囲に対して遠慮する傾向が強くなることが認められる。これより、高齢者に対する避難援助については、周囲からの積極的な支援が必要となるものと考えられる。

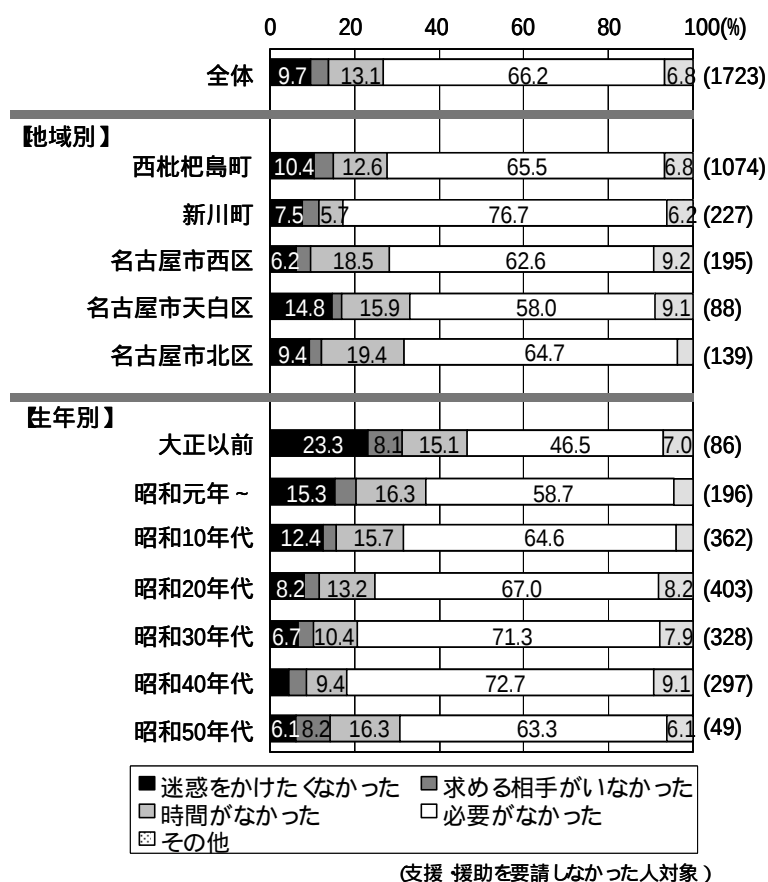


図 16-2-2 避難時において支援や援助を求めなかった理由

(3) 避難時の支援や援助を要請した相手

図 16-2-3 は、避難を行う際に支援や援助を求めた世帯について、そのときに支援や援助を要請した相手に関する回答の状況を示したものである。

- ・いずれの地域においても、「身内」が多く挙げられている。次いで「近所の人」や「消防団や自衛隊」の順になっている。

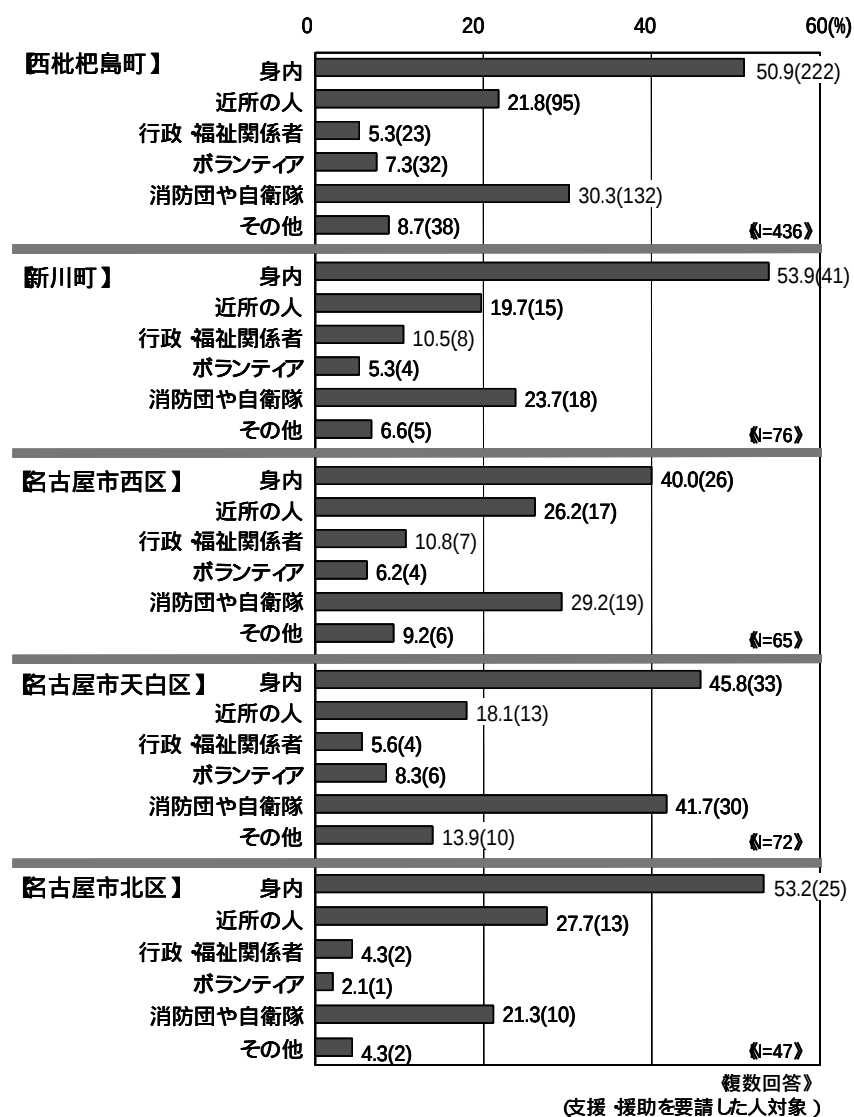


図 16-2-3 避難時において支援や援助を要請した相手

(4) 避難時において求めた支援や援助の内容

図 16-2-4 は、避難を行う際に支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助の内容に関する回答の状況を示したものである。

- ・いずれの地域においても、「避難所までの移動の援助」が最も多く挙げられている。東海豪雨災害では浸水の進展が速く、また、被害が深夜に生じたことなどから、避難を行うことが極めて困難であり、多くの世帯において避難所までの移動の援助が要請されたものと思われる。

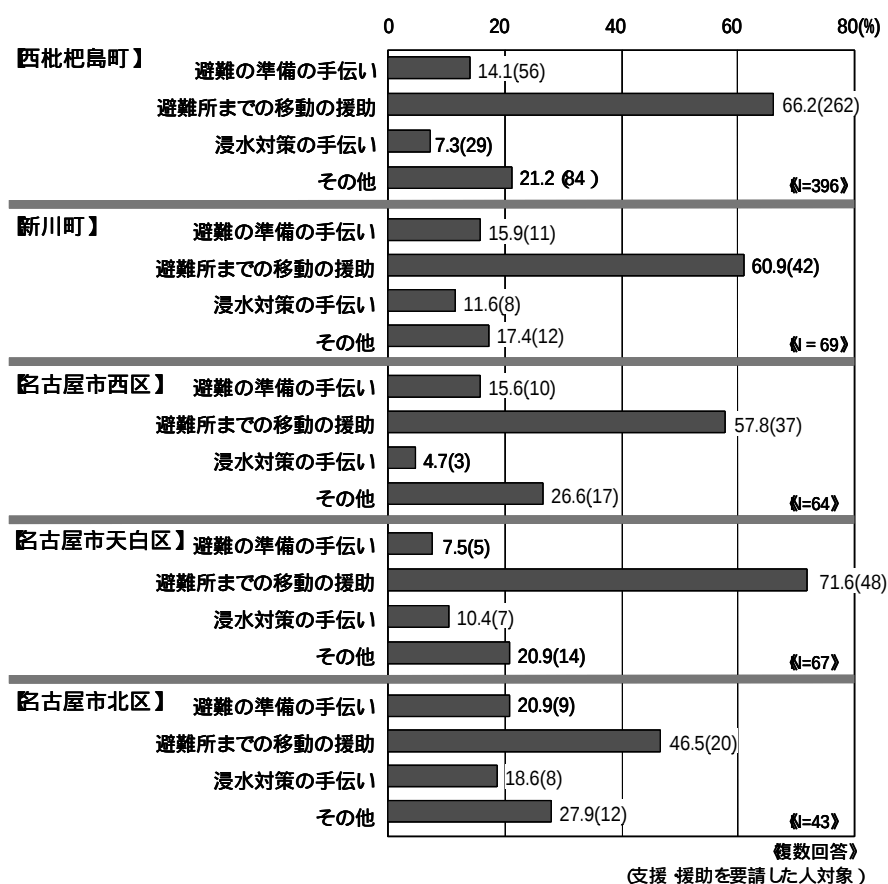


図 16-2-4 避難時において求めた支援や援助の内容

(5) 避難時における支援や援助の実現

図 16-2-5 は、避難を行う際に支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助を実際に得ることが出来たか否かに関する回答の状況を示したものであり、図 16-2-6 は、避難時において支援や援助を行ってくれた相手に関する回答を示したものである。

- ・図 16-2-5 を見ると、いずれの地域においても、「得ることができた」とする回答が多くを占めているものの、「得ることができなかった」とする回答も少なからず存在していることがわかる。
- ・図 16-2-6 を見ると、(3)で見た「支援や要請を要請した相手」と同様に、「身内」が多くなっていることがわかる。また、「消防団や自衛隊」や「近所の人」という回答も多く挙げられている。

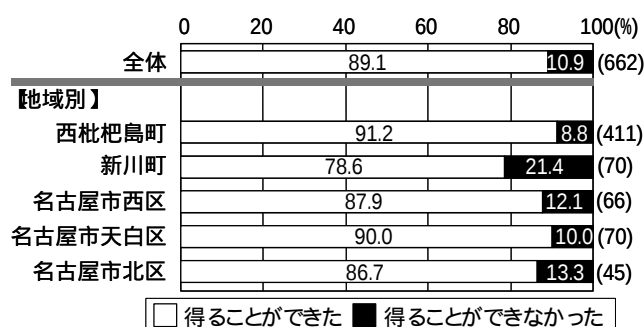


図 16-2-5 避難時における支援や援助の実現の有無

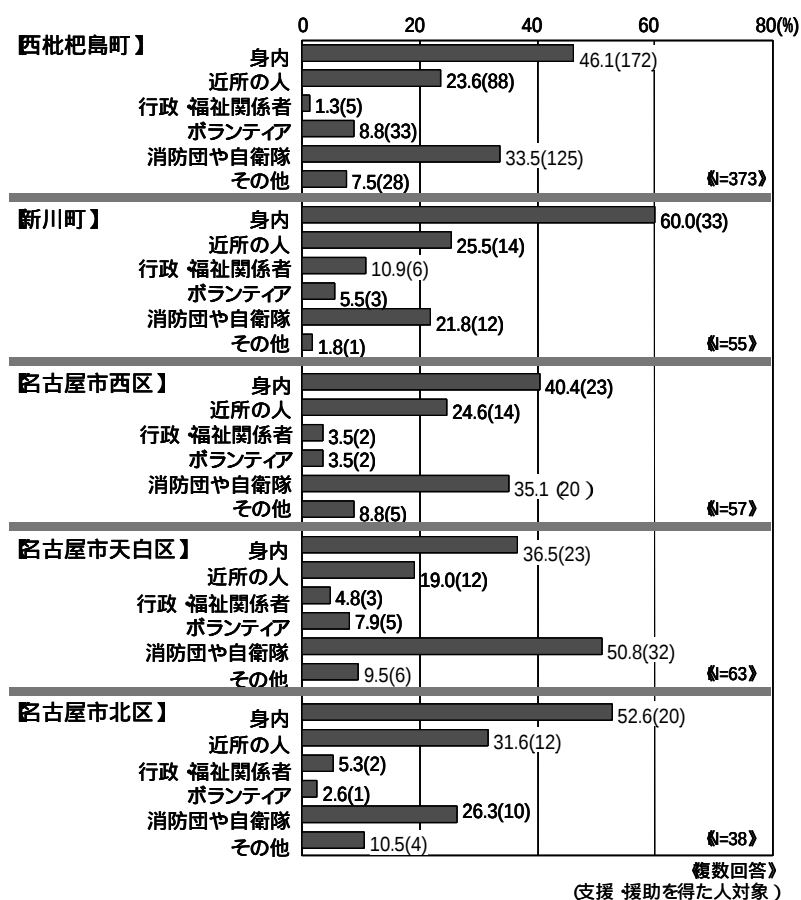


図 16-2-6 避難時における支援や援助を行ってくれた相手

16.3 避難所生活における支援や援助の要請とその実現

Point

・避難所生活において支援や援助を要請した世帯に関しても、天白区において比較的多く見受けられる。

ここでは、16.2 節において見た、避難を行う際の支援や援助の要請とその実現に関する状況の把握と同様に、避難所生活における支援や援助の要請とその実現に関する状況を把握する。検討項目は、16.2 節と同様である。

- (1) 支援や援助の要請の有無
- (2) 支援や援助を求めなかった理由
- (3) 支援や援助を要請した相手
- (4) 求めた支援や援助の内容
- (5) 支援や援助の実現

(1) 避難所生活における支援や援助の要請の有無

図 16-3-1 は、避難所生活における支援や援助の要請の有無についての回答状況を示したものである。

・避難所生活において支援や援助を求めた世帯は、調査対象世帯全体では約 26% であり、地域別では天白区が約 46% となっており比較的多い。これは、前節(1)と同様な傾向になっている。

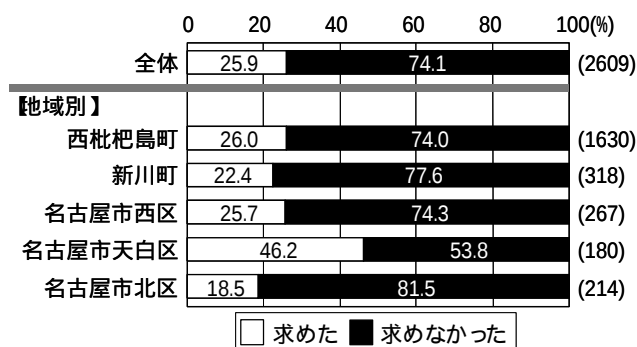


図 16-3-1 避難所生活における支援や援助の要請の有無

(2) 避難所生活における支援や援助を求めなかった理由

図 16-3-2 は、避難所生活における支援や援助を求めなかった世帯に関して、その理由についての回答を示したものである。

- ・「必要がなかった」とする回答が多くを占めているものの、「迷惑をかけたくなかった」、「求める相手がいなかった」などのように、潜在的な支援や援助に対する要望をもつ世帯が 20%以上は存在していることがわかる。これに関しても、16.2 節における傾向と同様である。
- ・回答者の生年別にみると、避難時において支援や援助を求めなかった場合と同様に、加齢するほど周囲に対して遠慮する傾向が顕著に見られる。

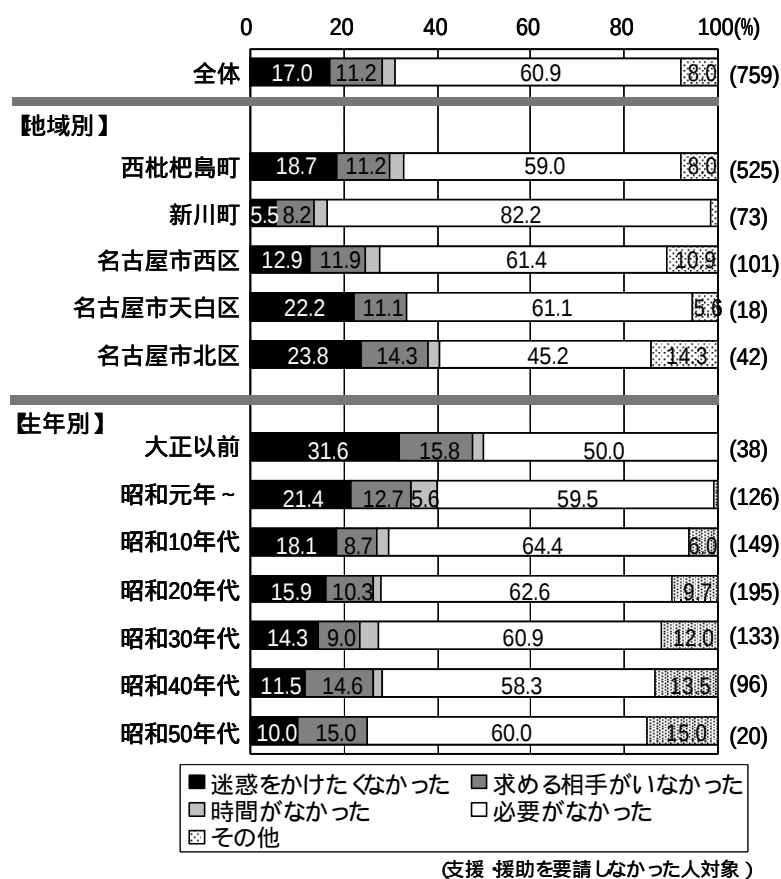


図 16-3-2 避難所生活で支援や援助を求めなかった理由

(3) 避難所生活において支援や援助を要請した相手

図 16-3-3 は、避難所生活における支援や援助を求めた世帯について、そのときに支援や援助を要請した相手に関する回答の状況を示したものである。

・いずれの地域においても、「身内」が多く挙げられている様子がわかる。

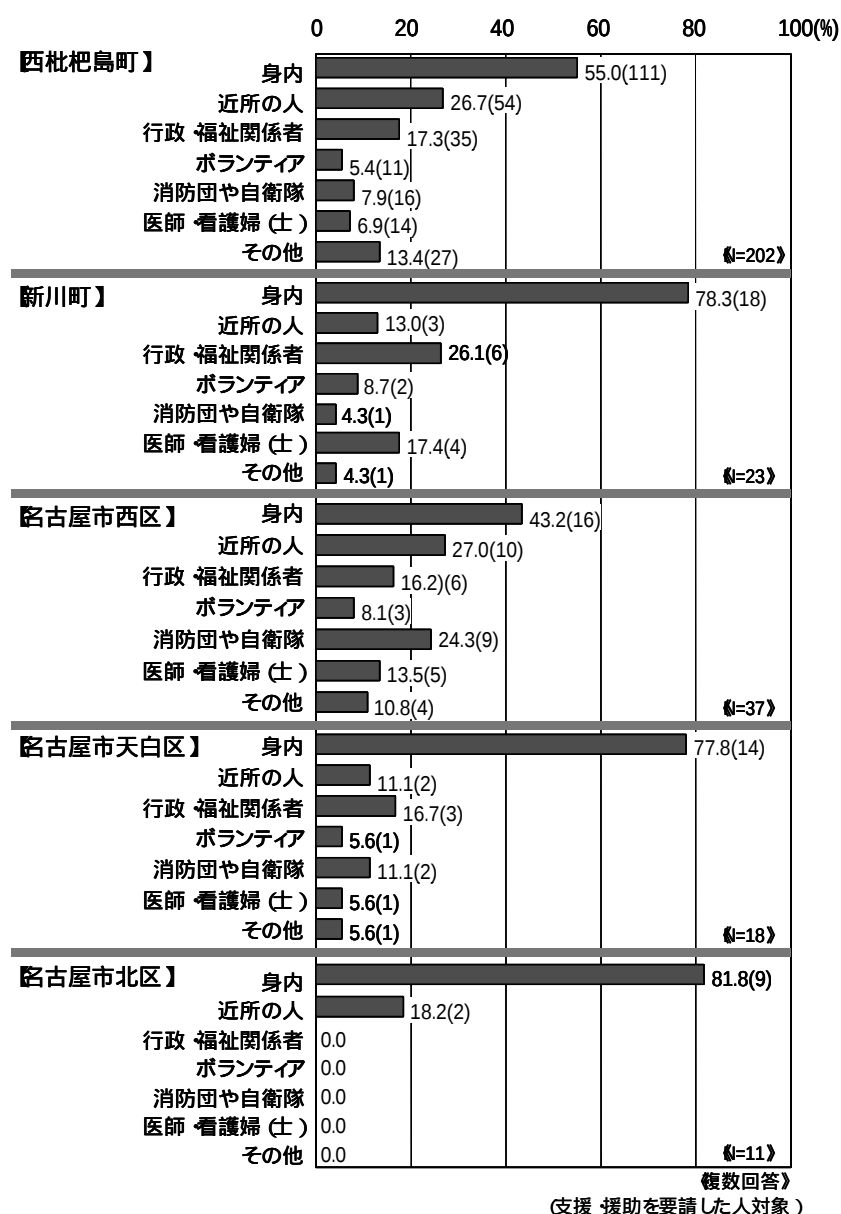


図 16-3-3 避難所生活において支援や援助を要請した相手

(4) 避難所生活において求めた支援や援助の内容

図 16-3-4 は、避難所生活における支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助の内容に関する回答の状況を示したものである。

- ・ 支援や援助の内容は「食事の世話」、「生活必需品」、「身内への連絡」等に関する項目が比較的多く挙げられている。

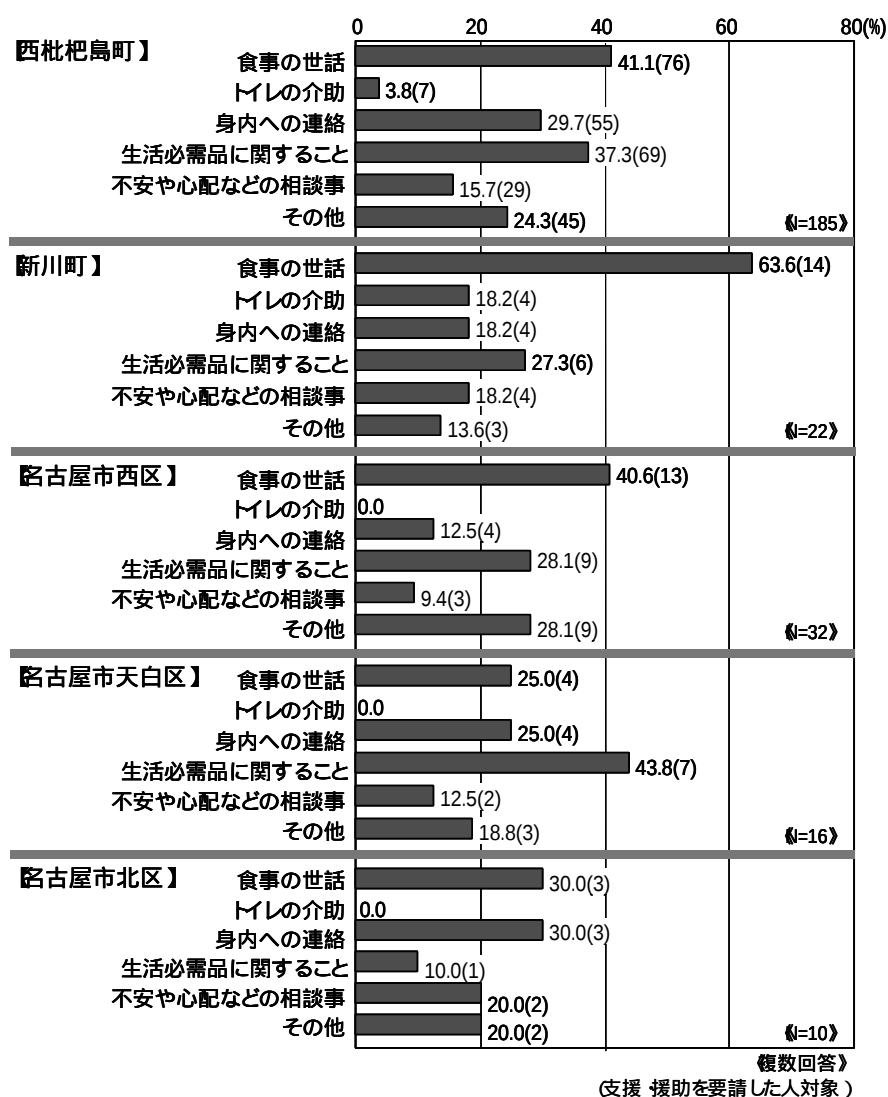


図 16-3-4 避難所生活において求めた支援や援助の内容

(5) 避難所生活における支援や援助の実現

図 16-3-5 は、避難所生活における支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助を実際に得ることが出来たか否かに関する回答の状況を示したものであり、図 16-3-6 は、その際に、支援や援助を行ってくれた相手に関する回答を示したものである。

- ・いずれの地域においても、「得ることができた」とする回答が多くを占めていることがわかる。
- ・その際に、支援や援助を行ってくれた相手に関する回答としては、「身内」が多く挙げられていることがわかる。

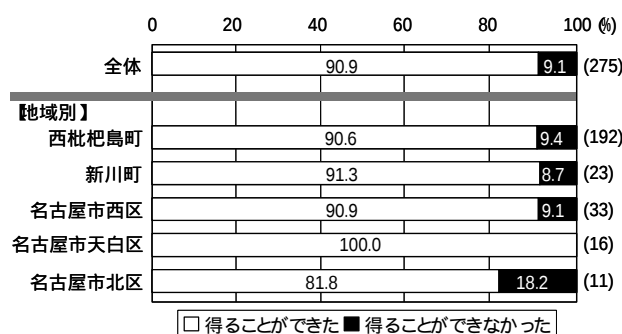


図 16-3-5 避難所生活における支援や援助の実現の有無

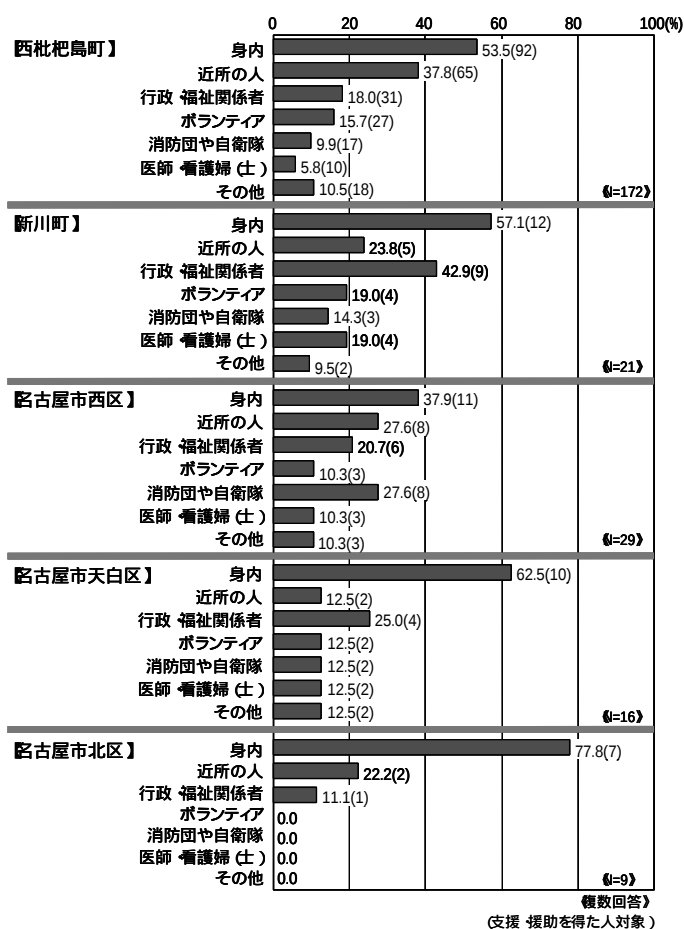


図 16-3-6 避難所生活における支援や援助を行ってくれた相手

16.4 生活復旧・復興時の支援や援助の要請とその実現

Point

- ・生活復旧・復興時における支援や援助の内容は「自宅の掃除」や「自宅からのゴミ出し」が多い。
- ・生活復旧・復興時における支援や援助の要請をした世帯は、西枇杷島町において多く見受けられる。

ここでは、16.2 節ならびに 16.3 節において見た、避難を行う際や避難所生活における支援や援助の要請とその実現に関する状況の把握と同様に、生活復旧・復興時における支援や援助の要請とその実現に関する状況の把握する。検討項目は、16.2 節ならびに 16.3 節と同様である。

- (1) 支援や援助の要請の有無
- (2) 支援や援助を求めなかった理由
- (3) 支援や援助を要請した相手
- (4) 求めた支援や援助の内容
- (5) 支援や援助の実現

(1) 生活復旧・復興時における支援や援助の要請の有無

図 16-4-1 は、生活復旧・復興時における支援や援助の要請の有無についての回答状況を示したものである。

- ・生活復旧・復興時において支援や援助を求めた世帯は、調査対象世帯全体では約 55% であり、地域別では西枇杷島町が約 61% となっており比較的多い。これは、16.2 ならびに 16.3 における傾向とは異なり、生活復旧・復興時における支援や援助の内容は、主に浸水によって被害を受けた家財等の後かたづけや掃除などが多くを占めていることによるものと考えられる。

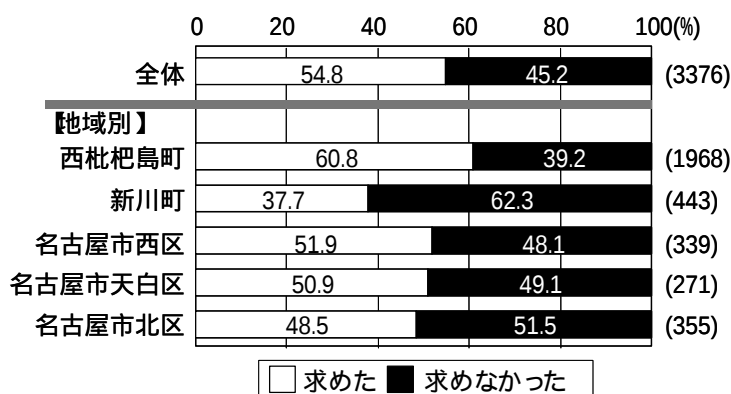


図 16-4-1 生活復旧・復興時における支援や援助の要請の有無

(2) 生活復旧・復興時における支援や援助を求めなかった理由

図 16-4-2 は、生活復旧・復興時における支援や援助を求めなかった世帯に関して、その理由についての回答を示したものである。

- ・生活復旧・復興時における支援や援助を求めなかった理由としては、「必要がなかった」という回答が最も多く、次いで「迷惑をかけたくなかった」が多く挙げられている。地域別に見ると、「迷惑をかけたくなかった」と回答しているのは西枇杷島町や名古屋市北区に多く見られる。
- ・回答者の生年別にみると、16.2 節 (2) 避難時や 16.3 節 (2) 避難所生活の場合と同様に加齢するほど周囲に対して支援や援助を要請することを遠慮する傾向がみられる。特に、昭和以前生まれの高齢者においては、「迷惑をかけたくなかった」と回答している人が 40%を占めている。

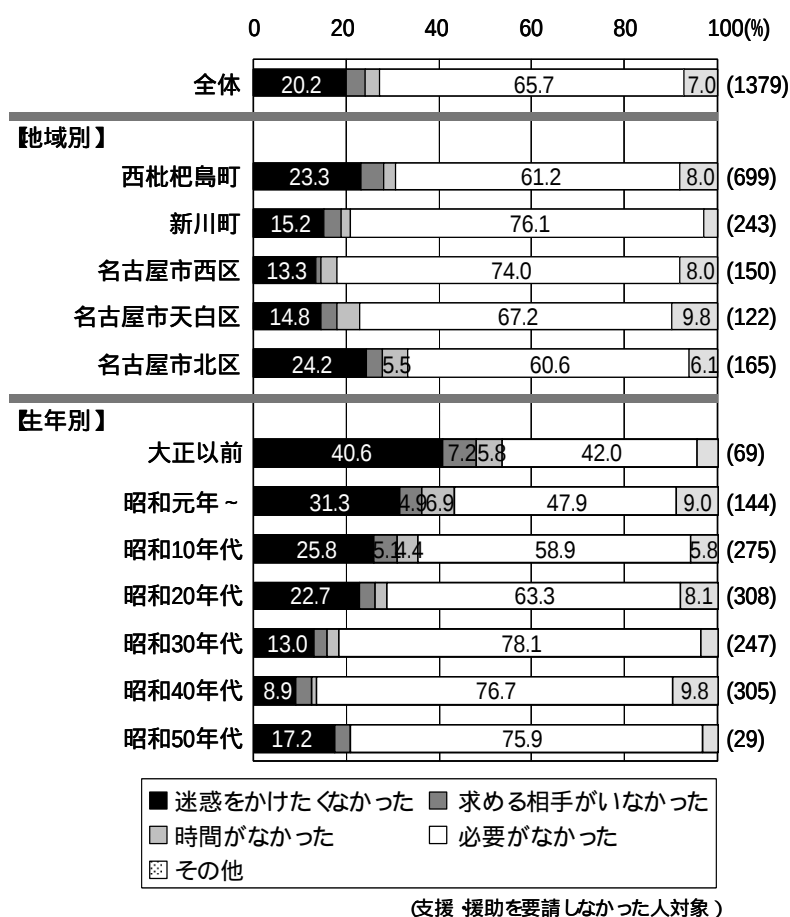


図 16-4-2 生活復旧・復興時において支援や援助を求めなかった理由

(3) 生活復旧・復興時において支援や援助を要請した相手

図 16-4-3 は、生活復旧・復興時における支援や援助を求めた世帯について、支援や援助を要請した相手に関する回答の状況を示したものである。

・いずれの地域においても、「身内」が多く挙げられている。次いで、「ボランティア」や「近所の人」の順になっている。

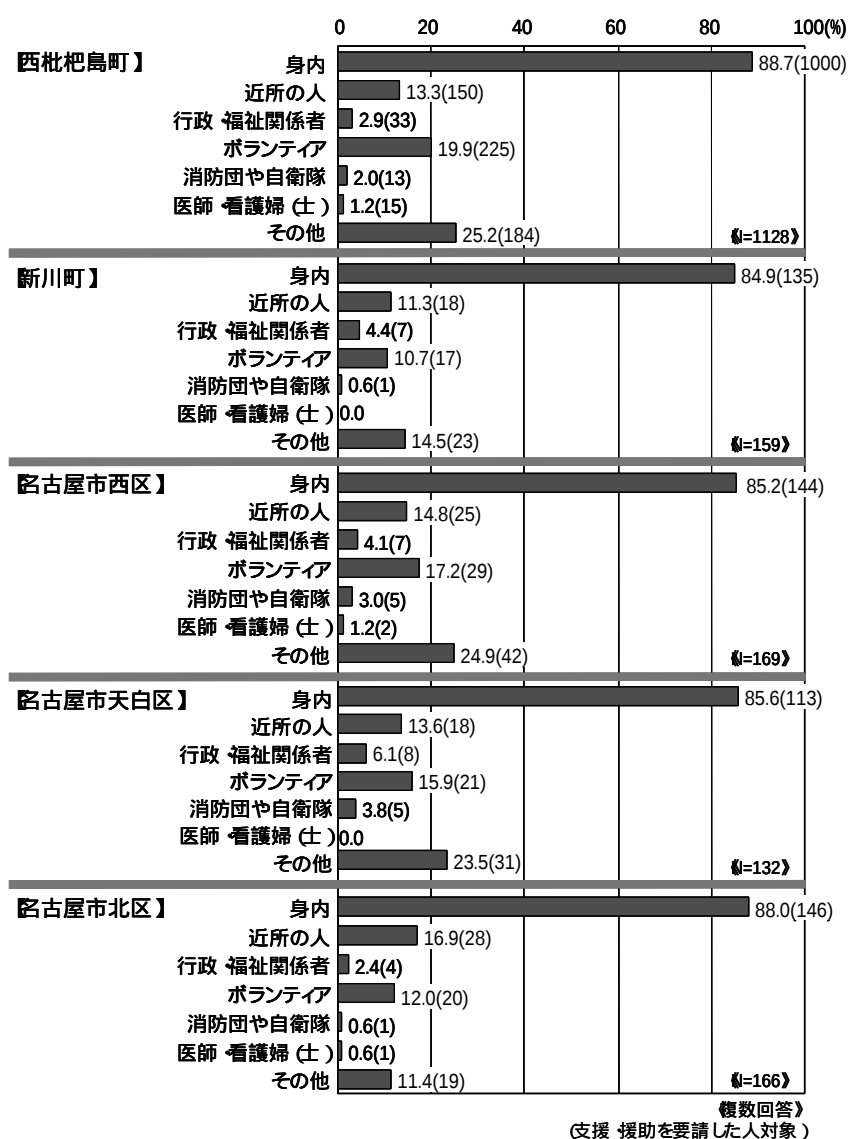


図 16-4-3 生活復旧・復興時において支援や援助を求めた相手

(4) 生活復旧・復興時において求めた支援や援助の内容

図 16-4-4 は、生活復旧・復興時における支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助の内容に関する回答の状況を示したものである。

- ・ 支援や援助の内容は「自宅の掃除」や「自宅からのゴミ出し」が多く挙げられており、どの地域においても 70%前後を占めている。

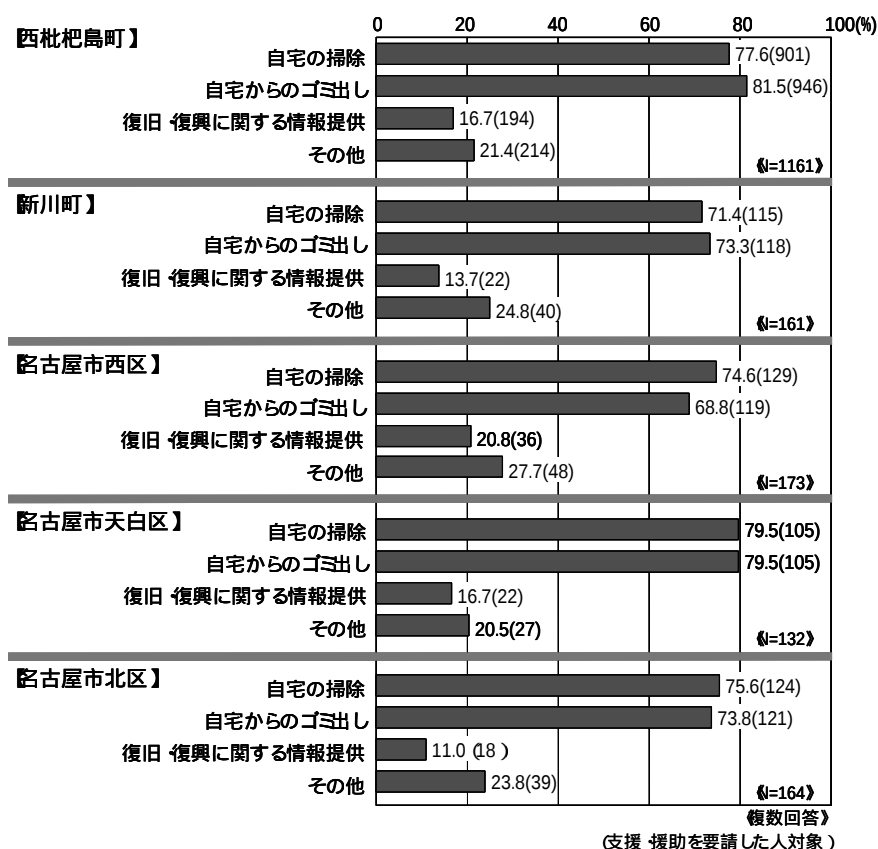


図 16-4-4 生活復旧・復興時における支援や援助の内容

(5) 生活復旧・復興時における支援や援助の実現

図 16-4-5 は、生活復旧・復興時において支援や援助を求めた世帯について、その支援や援助を実際に得ることが出来たか否かに関する回答の状況を示したものであり、図 16-4-6 は、その際に、支援や援助を行ってくれた相手に関する回答を示したものである。

- ・ いずれの地域においても、約 99%の世帯において「得ることができた」と回答している。
- ・ その際に、支援や援助を行ってくれた相手に関しては、(3) で見た「支援や要請を要請した相手」と同様に、「身内」が多くなっていることがわかる。
- ・ 特に西枇杷島町や、名古屋市天白区、西区においてボランティアの支援が 20%を上回っている。

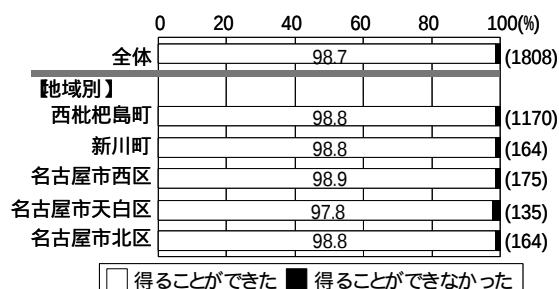


図 16-4-5 生活復旧・復興時における支援や援助の実現の有無

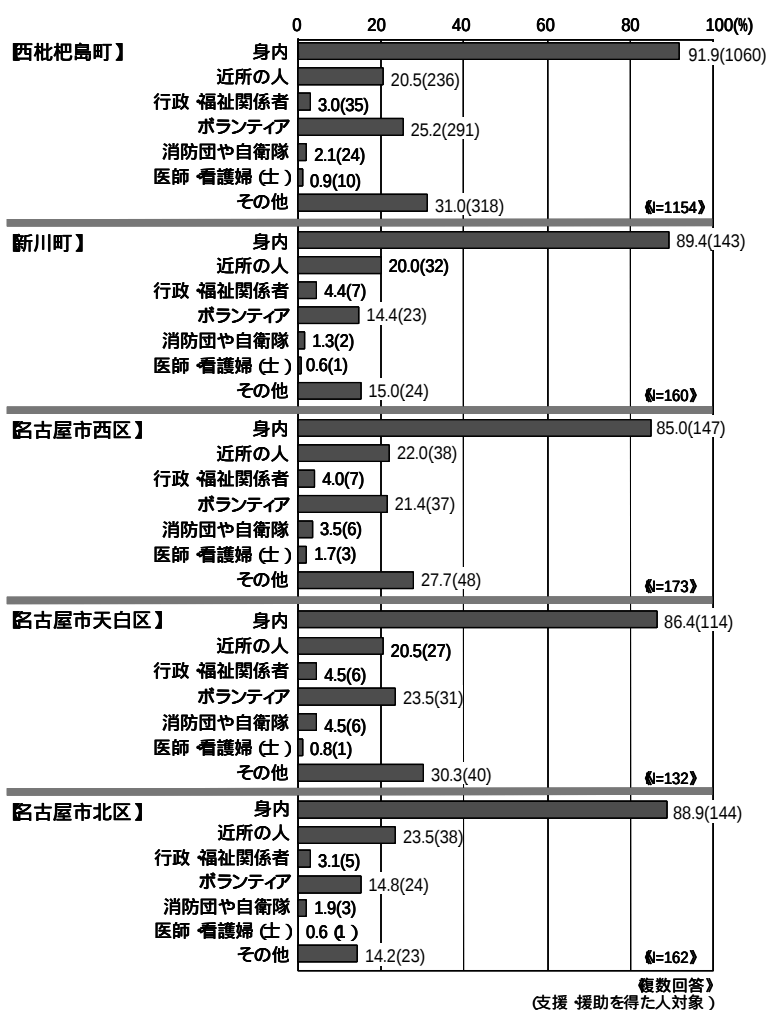


図 16-4-6 生活復旧・復興時において支援や援助を行ってくれた相手

16.5 分譲集合住宅(マンション)やアパートにおける入居者相互の支援や援助

(1) 分譲集合住宅(マンション)における管理組合の支援や援助

Point ・集合分譲住宅(マンション)では、管理組合による呼びかけのもとで「集合住宅近辺の掃除」、「見舞金のカンパ」、「ゴミ出しの手伝い」などが多く行われている。また、自発的な援助も多く見られる。

分譲集合住宅(マンション)での管理組合による支援や援助の有無ならびにそれへの参加有無に関する状況を示したものが図 16-5-1 である。調査では、図中に示すような 7 項目の支援や援助に関する支援や援助の有無ならびにそれへの参加有無を問うている。

・管理組合からの呼びかけのもとでそれに参加したとする回答者が多く存在する項目は、「集合住宅近辺の掃除」、「見舞金のカンパ」、「ゴミ出しの手伝い」などである。また、管理組合からの呼びかけがない中で、自主的に住民が行っている様子が伺える。

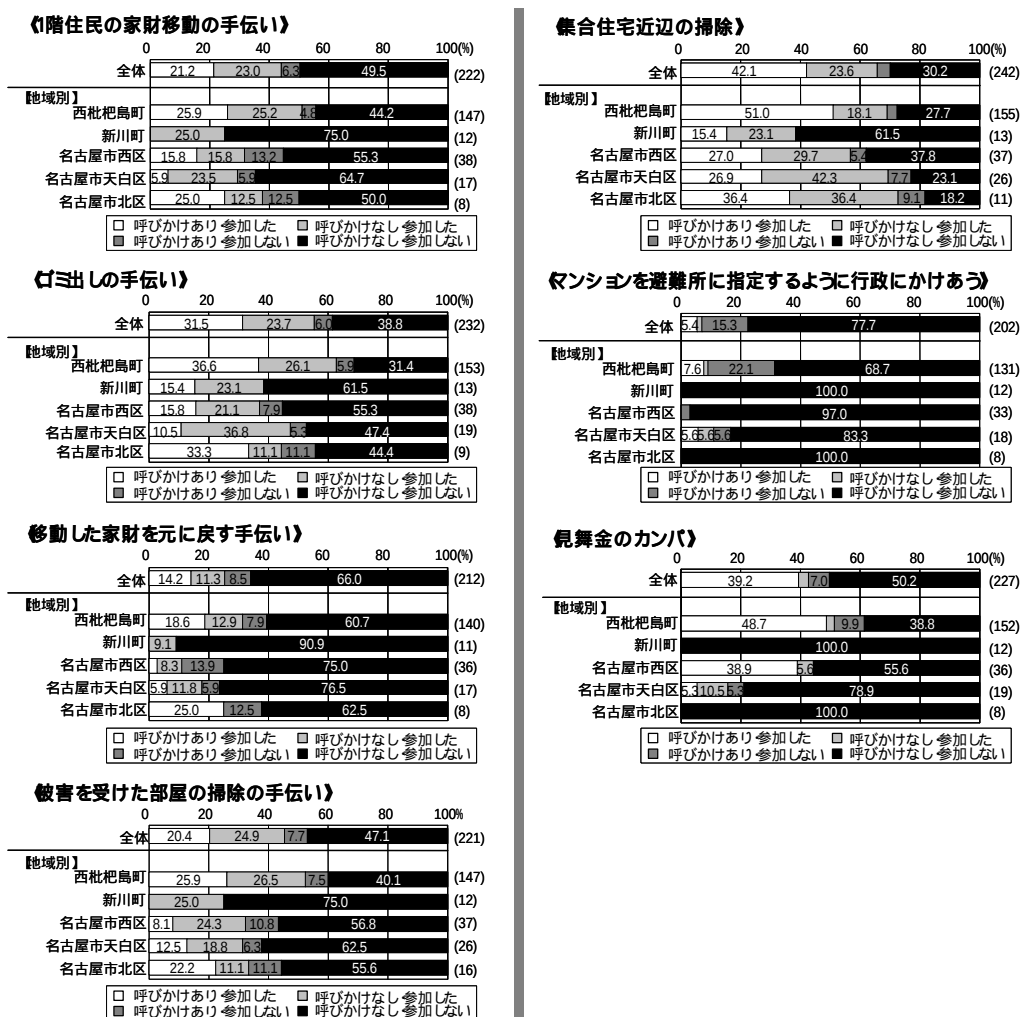


図 16-5-1 集合分譲住宅における支援の実態

(2) アパートや集合分譲住宅 (マンション) における住民間の支援や援助の実態

Point ・アパートや集合分譲住宅 (マンション) における住民間での支援や援助に関しては、「集合住宅付近の掃除」や「ゴミ出しの手伝い」などが多く行われている。

図 16-5-2 は、集合分譲住宅 (マンション) ならびにアパートにおける、住民間での支援や援助の状況を示したものである。

・いずれの地域においても、「集合住宅付近の掃除」や「ゴミ出しの手伝い」などが比較的多く行われている様子が見える。

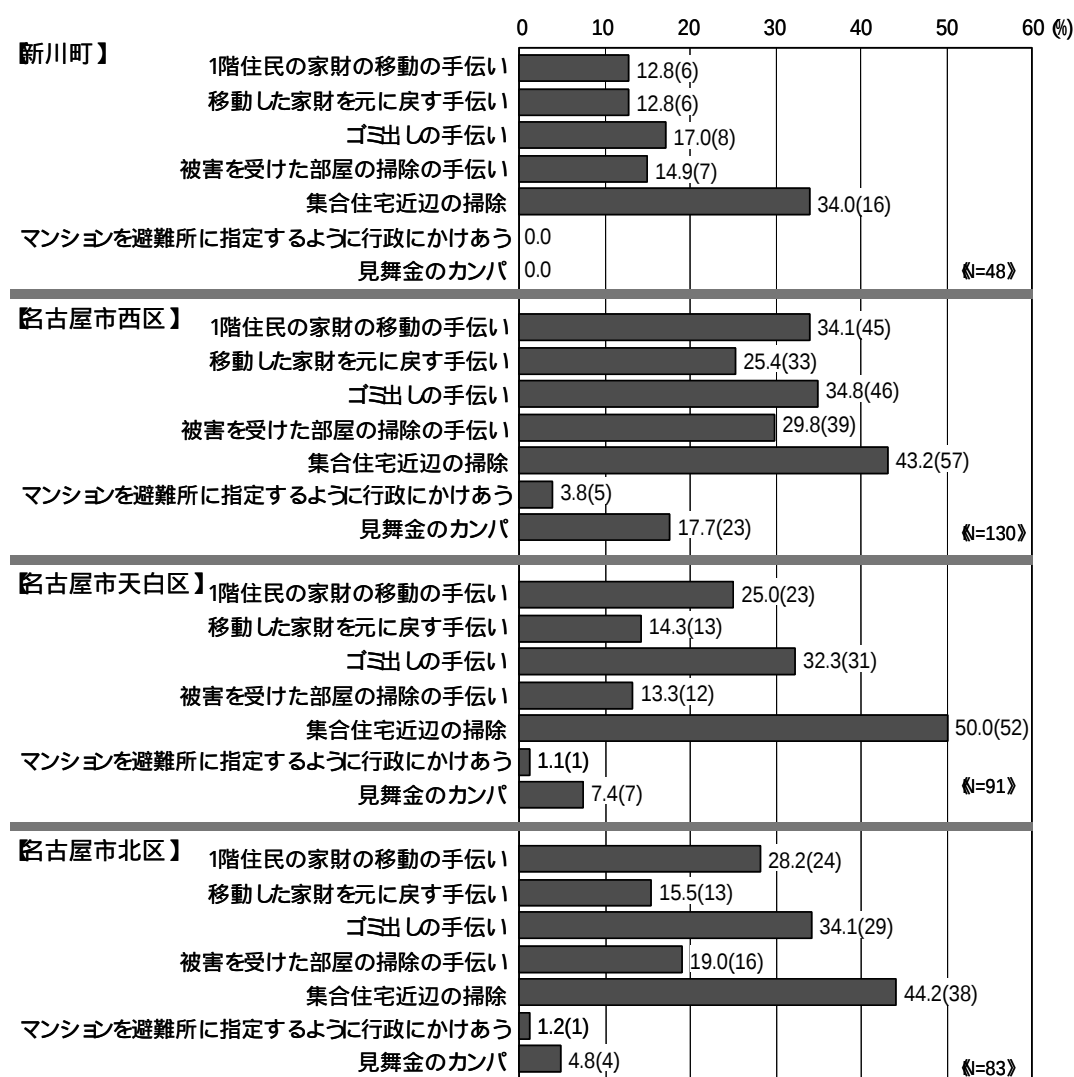


図 16-5-2 アパートや集合分譲住宅 (マンション) における住民間の支援や援助の実態